

YCAM10周年記念祭公募企画展示

「LIFE by MEDIA メディアによるこれからの生き方・暮らし方の提案」

2013年7月6日(土) — 9月1日(日)、11月1日(金) — 12月1日(日) 火曜休み 入場無料
山口市中心商店街

メディアが変わる、コミュニティのかたち—

YCAM初の企画公募で選ばれた3つのプロジェクトが山口の街中で展開！

山口情報芸術センター [YCAM] では、YCAM10周年記念祭の一環として、これからの時代の生活のあり方を提案するプロジェクトのコンペティション「LIFE by MEDIA (ライフ・バイ・メディア) メディアによるこれからの生き方・暮らし方の提案」を実施しました。

そしてこのたび、日本を含む欧米やアジアなどの10カ国以上から寄せられた約140点の応募の中から、10周年記念祭アーティストック・ディレクターを務める坂本龍一をはじめ、アートや建築、コミュニティデザインの第一線で活躍する6名の審査員による厳正な審査を経て、3つのプロジェクトの受賞と実現が決定しました。(右欄参照)

いずれも商店街の中に常設された一般参加型のアートプロジェクトとして、行き交う人々を巻き込むことで変化していきます。それぞれの視点から「メディア」を捉え、地域に生きる人々同士、さらには山口を訪れる観光客とのコミュニケーションに活気ある変化をもたらす各プロジェクトは、10周年記念祭のテーマである〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉を生活空間で実践する象徴的なものとなるでしょう。この機会にぜひご体験ください。

■ 受賞作品

西尾美也「PUBROBE (パブローブ)」

深澤孝史「とくいの銀行 山口」

犬飼博士+安藤僚子「スポーツタイムマシン」



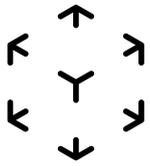
(上左) 深澤孝史「とくいの銀行」

(上右) 犬飼博士+安藤僚子「スポーツタイムマシン」のスケッチ

(下) 西尾美也「PUBROBE (パブローブ)」の参考資料

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくごお願い申し上げます。





ソーシャルメディア時代を生きる、私たちの新しい「生き方」「暮らし方」とは？

近年、バックグラウンドが異なる複数の人々が共同生活をおこなう「シェアハウス」や、固定のオフィスを持たずカフェなどを転々としながら仕事をおこなう「ノマドワーキング」など、私有や定住を前提としない新しい「生き方」「暮らし方」が話題になっています。この背景には、情報端末の小型化や通信環境の整備といったインフラ面での情報化の進展もありますが、2011年の東日本大震災をきっかけに爆発的に普及し、生活に密接なものとなったFacebookなどのSNSの存在を欠かすことはできません。

SNSによるコミュニケーション速度の加速化は、多くの利便性をもたらすと同時に、人と人、地域、社会の関係に新しいレイヤーを生み出し、新しい回路を築きつつあるのです。

LIFE by MEDIA これからの生き方・暮らし方の提案



審査の様子

こうした現状を踏まえYCAMでは、10周年記念祭を機に、改めてメディアや情報に着目し、山口市の地域コミュニティの中で、新しい「生き方」「暮らし方」を提案するプラットフォーム型のプロジェクトのコンペティションを実施しました。それが「LIFE by MEDIA これからの生き方・暮らし方の提案」です。

アメリカ、イギリス、ドイツ、中国、韓国、メキシコなどの10カ国以上から寄せられた約140点の応募の中から、坂本龍一や青木淳をはじめ、アートや建築、コミュニティデザインの第一線で活躍する6名の審査員による厳正な審査を経て、3つのプロジェクトの受賞が決定。山口市中心商店街での実施に向けて動き始めました。

■ シェアハウス

複数人でひとつの住居をシェア（共有）すること。敷金や礼金、保証人が不要な場合が多く、経済面での負担を軽減したい20代～30代の間のライフスタイルとして定着しつつある。近年は、住人同士のコミュニケーションを重視したもの、内部にクラブを設置するものなど多様化が進んでいる。

■ ノマドワーキング

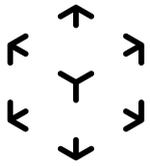
定められた勤務地と勤務時間に縛られることなく、自由な場所、自由な時間で仕事をする働き方。とりわけ、近年カフェなどの公共空間で無線LAN環境や電源が整備されたことから、自営業を中心に急速に普及が進んでいる。

■ Facebook

2004年にアメリカのマーク・ザッカーバーグによって開始されたウェブサービス。彼が所属していたハーバート大学の学生が相互に交流を図るためのサービスとして始まり、2006年に一般向けに公開された。テキストや写真などが投稿でき、トピックごとにグループを作成できる点は一般的なSNSと同じだが、特に知人を検索する機能に優れている。2013年3月現在、ユーザー数は11億人。2010年に発生したチュニジアの民主化運動では、同じくSNSのTwitterとともに市民の情報共有のツールとして積極的に利用されたことが話題になった。

■ 「LIFE by MEDIA」審査員

- ・坂本龍一（音楽家）
- ・青木淳（建築家）
- ・江渡浩一郎（メディアアーティスト）
- ・津村耕佑（FINAL HOMEディレクター）
- ・山崎亮（コミュニティデザイナー）
- ・兼松佳宏（greenz編集長）



西尾美也「PUBROBE (パブローブ)」ーコミュニケーションを生み出す服飾品というメディア



制作中の様子

アーティストの西尾美也は、体験できるメディアとしての「衣服」、そして、消費としてのファッションではなく、「装い」という有史以来人類が日常的におこなってきた行為に着目し、活動を展開してきました。数十年前に撮影された家族写真をもとに、そこで着ていた衣服を再制作し、同じ場所で再び家族写真を撮影する「家族の制服」など、そのプロジェクトは世界各地で発表を重ねています。

今回、西尾が取り組む「PUBROBE」は、個人のワードローブ(衣服を始めとする服飾品)を持ち寄って、誰もが利用可能な公共のワードローブ(衣装用のたんす)をつくるというもので、現在西尾が拠点を置くナイロビのマーケットから着想を得たプロジェクトです。服飾品の試着やレンタルだけでなく、洗濯やリメイク、陳列替えのワークショップもおこない、「服飾品」というメディアを通した活気あるコミュニケーションを生み出す環境そのものをつくります。会期を通して常に変化するワードローブ。山口市民を中心に続々と集まり始めているハンガーや衣服を用いて、西尾はどのようなメディアとしての創造的空間を生み出していくのでしょうか。

西尾美也の受賞コメント

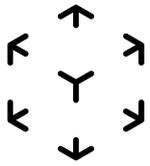
装いをコミュニケーションのメディアと捉え、独自の視点で取り組んできた私の探究は、YCAMの10周年という時間と重なるかのようです。ここ数年のナイロビでの特異な滞在制作の経験を日本に持ち帰る絶好の機会と捉え、今回のプロジェクトに挑みたいと思っています。

■ 西尾美也 (にしお・よしなり)



1982年奈良県生まれ。東京とナイロビを拠点に活動する。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士(美術)。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目し、市民との協働によるプロジェクトを国内外で展開している。2009年には西尾工作所ナイロビ支部を設け、アフリカでのオルタナティブなアートプロジェクトを開始。

美術家として探究してきた装いに対する考察をもとに、2011年にファッションブランド「FORM ON WORDS」を設立した。



深澤孝史「とくいの銀行 山口」—市民の「とくいなこと」を運用する銀行



制作中の様子

アーティストの深澤孝史は、さまざまな現場において常識とされている物事を再設定することで新たな状況をつくりだそうとするプロジェクトを各地でおこなっています。浜松でおこなわれた「しょうがいぶつマラソン」(2012年)では、〈街の達人〉と呼ばれる人、視覚障害者、外国人など個性溢れる人々と一緒に、ミッションが設定されたコースを走って巡り、それらをクリアするという仕組みを構築。浜松の街に存在するさまざまな個性を浮かび上がらせました。

今回、深澤が取り組む「とくいの銀行 山口」は、深澤が2011年に茨城県の取手井野団地で始めた「とくいの銀行」を発展させたプロジェクトです。アーティスト自らが頭取を務めるこの銀行で、預けたり、引き出したりできるのはお金ではなく、住民が得意なこと。預かった「とくい」をもとに、様々な企画を実施しながら運用することで、地域に潜在している無形の資源を顕在化させ、新たな経済圏／文化圏をつくりだすものです。さらに今回は、「とくい」の交換や運用のほかにも、人々から預けられた「とくい」にもとづいて、「とくいの銀行 山口」の本店が設置される山口市中心商店街を読み替え、新たな仮想の商店街「なつぼし商店街」を立ち上げるという試みを実現すべく活動していきます。

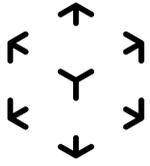
深澤孝史の受賞コメント

これまでの自分の活動を踏まえつつも、地域とそれぞれの個に根ざした現場を築けるようにがんばっていきます。

■ 深澤孝史 (ふかさわ・たかふみ)



1984年山梨県生まれ。中心市街地でさまざまな活動や場が「しょうがいぶつ」となるマラソンコースをつくる「しょうがいぶつマラソン2012」(2012 浜松)、非常時の危機的状況そのものを表現活動に翻訳する「非常美術倉庫」(2012 越後妻有)、通貨のかわりにとくいなことを交換できる銀行を運営する「とくいの銀行」(2011- 取手) など様々な現場で日常やその世界の常識を再設定するプロジェクトを主に展開。趣味は鼻笛。



犬飼博士+安藤僚子「スポーツタイムマシン」—自分を含めた過去の人々と対戦できる装置



制作中の様子

ゲームクリエイターの犬飼博士とインテリアデザイナー安藤僚子は、2011年から始まった日本科学未来館の常設展「アナグラのうた～消えた博士と残された装置～」(2011年)を共同で制作しています。この展示は、世界をセンシングし、得られた情報を共有し活用することで新しい価値を生み出していく「空間情報科学」という研究領域をテーマとした展示で、文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞を受賞しました。

今回、そんな二人が取り組む「スポーツタイムマシン」は、映像データベースに保存されたさまざまな人々と「かけっこ」で競走できる装置をつくるプロジェクトです。参加者自身や、家族、友人などが走る様子を記録し、それをコースの側面に設置されたコースと同サイズのスクリーンに投影。スクリーン上に再現された人物とかけっこで競走することができます。「デジタル技術」と「空間」の幸せな融合を目指すこの装置を通じて、過去・現在・未来を横断する身体コミュニケーションのためのプラットフォームを実現するとともに、市民の生活に長く根付かせられるような活動を展開していきます。

犬飼博士+安藤僚子の受賞コメント

100年の時間を超えて大好きな人や動物とかけっこできるタイムマシンです。ずっとあったらいいなと思っていた道具です。新しい遊び、未来のスポーツを山口やYCAMのみなさんと一緒に作り始められることがとても嬉しいです。

■ 犬飼博士 (いぬかい・ひろし)

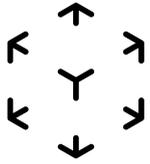


1970年愛知県生まれ。映画監督山本政志に師事したのちゲーム監督に転身。人と人がつながるコミュニケーションツールとしてのビデオゲームにこだわり対戦型ゲームだけを制作。コンピュータゲームのオリンピックとも言えるWCGやCPLの日本予選を主催し世界大会に参加。近年はIT(ゲーム)とスポーツの間に生まれた情報社会のスポーツ「eスポーツ」や、空間情報科学をテーマとした展示「アナグラのうた 消えた博士と残された装置」(2011年/日本科学未来館)など、小さなビデオ画面だけに収まらないフィジカルな作品を制作している。

■ 安藤僚子 (あんどう・りょうこ)



1976年東京都生まれ山形県育ち。ファッションや飲食のショップデザインを中心にエキシビションスペースの制作、ショップディスプレイ、ブランドのCI・VI、パッケージのディレクションなどをおこなう。ハンドメイドで遊び心のあるデザインを得意とし、インスタレーションの制作、D.I.Y.ワークショップ、和歌山のおばあさんと花を編んで販売する活動(ハナアミ)など、デザインやアイデアを生活に活かすための活動も行っている。



「アートと環境の未来・山口」
YCAM 10周年記念祭

2013年6月26日 プレスリリース

山口情報芸術センター [YCAM] 10周年記念祭
公募企画展示

「LIFE by MEDIA」がつくりだす「生活の眼鏡」

そこにあるのに見えないもの、感じられないもの。それを見えたり感じられたりするようにしてくれる道具、それがメディアです。近視の人だったら、眼鏡があっちはじめて見える遠くの景色がある。つまり、眼鏡もメディアのひとつ。「LIFE by MEDIA」では、ぼくたちの生活のなかから、さらに彩り豊かな生活の姿を出現させてくれる道具を提案してもらいました。選ばれたそれぞれ違う3つの新しい「生活の眼鏡」、どうぞ楽しんでください。

—青木淳（建築家）の審査コメント

現在、3組のアーティストは、会場となる山口市中心商店街の風景を変えるような「生活の眼鏡」の実現に向けて、商店街にほど近い一軒家で生活をしながら、制作を始めています。どのプランも、成功の鍵を握るのは、商店街に店を構える人々、商店街を利用する人々の協力です。そのため、アーティストと人々との対話や協働が日夜繰り返されています。この様子は「LIFE by MEDIA」のウェブサイトで逐次レポートしていますので、この機会にぜひご覧ください。

<http://lifebymedia.tumblr.com>

開催概要

YCAM10周年記念祭公募企画展示

「LIFE by MEDIA メディアによるこれからの生き方・暮らし方の提案」

2013年7月6日（土）—9月1日（日）、11月1日（金）—12月1日（日）

10:00-19:00 火曜休み 参加無料

西尾美也「PUBROBE」

会場：みんなの園（山口県山口市市中1-23）

深澤孝史「とくいの銀行 山口」

会場：みずほ銀行山口支店向かい（山口県山口市米屋町2-4）

犬飼博士+安藤僚子「スポーツタイムマシン」

会場：オアシスどうもん横（山口県山口市道場門前2-3-6）

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

アーティストトーク

7月6日（土）13:00～ 会場：みんなの園

「LIFE by MEDIA」に出展するアーティストたちによるトークイベント。

Exhibition Map 展示マップ

- A** PUBROBE (パブローブ)
みんなの園 [井筒屋前広場]
山口市市中町1-23
 - B** とくいの銀行 山口
みずほ銀行向かい
山口市米屋町2-4
 - C** スポーツタイムマシン
オアシスどうもん横
山口市道場門前2-3-6
- YCAM
山口市中央通り7-7
- A** PUBROBE
Opposite Itutsuya Department Store
1-23 Nakachi-cho Yamaguchi City
 - B** Tokuno Bank Yamaguchi
Opposite Mizuho Bank
2-4 Komeya-cho Yamaguchi City
 - C** Sports Time Machine
Next to Oasis Doman
2-3-6 Dojomanzen Yamaguchi City
- YCAM
7-7 Nakazono-cho Yamaguchi City

